

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】十分達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具体的な方策	今年度の取組状況
<p>学習指導</p> <p>課題を見出し、解決策を提示できる、思考力・判断力・表現力を養う授業への改善</p> <p>【B】</p>	<p>① 定期考査や模擬試験の結果分析を踏まえた教科会における課題と学力向上策の明確化</p> <p>② 主体的で対話的な深い学びを実現するための授業研究の実施</p> <p>③ 教員相互の授業参観の実施</p> <p>④ 生徒の科学的思考力を高め、疑問点を自ら解決する態度の涵養</p>	<p>① リアテンドメントを使用した学力分析を各自が定期考査後に行い、授業改善を実施するよう指示した。模擬試験の結果分析会を実施し生徒の弱点を克服するよう教科内で共有し授業改善に取り入れた。</p> <p>② 対話的な学びを取り入れた授業が多くみられた。『主体的な学び』の実現には課題がみられた。</p> <p>③ 授業参観プログラムへ7名の先生が参加した。年次研修の研究授業には多くの教員が参観した。他教科の教員も見学し参考にすることができた。</p> <p>④ 科学部の部活動指導により科学の甲子園に参加した。</p>
<p>進路指導</p> <p>キャリア教育の充実による一段高い進路意識の保持</p> <p>【A】</p>	<p>① 生徒が主体的に進路探究活動を行うための進路行事の内容充実</p> <p>② 各種検定の実施や朝学習の充実など、スモールステップで進路意識を高める取組の充実</p> <p>③ 海外学校間交流推進校として姉妹校交流を進め、主体的に他者理解を深める取組の拡充</p>	<p>① 探究テキストを活用した第1、2学年の総合的な探究の時間を計画的に行い、グループごとのテーマ研究を充実させた。</p> <p>1学年は、武蔵大学と連携し探究の手法を学んだ。</p> <p>② 海外学校間交流事業を利用し、英語検定の全員受験を実施した。準2級以上合格者は大幅に増えた。</p> <p>③ 姉妹校締結のために北京の高校と交流を行った。中国からの高校生と本校生徒が一緒に学ぶ機会を設けた。</p>
<p>生活指導</p> <p>統一した生活指導方針による校則遵守の組織的な指導と生徒の主体性の向上</p> <p>【B】</p>	<p>① あらゆる学校行事で実行委員公募を行うなど特別活動への生徒の主体的な取組の促進</p> <p>② 部活動顧問による生徒指導と安全教育の強化、学習活動と両立できる活動計画立案・実施</p>	<p>① 前年度から生徒の委員を公募し、生徒が主体的に行事を企画運営し、HADO・歩こう会、体育祭・文化祭・クラスマッチを学年ごとに実施し、工夫して実行する意欲や態度を育成した。</p> <p>② 吹奏楽部は入学式で校歌紹介を行った。近隣施設にて演奏を行った。町会お祭りへの協力など地元との交流を深めた。</p>

	③ 教育相談の手法を活用した学年と生活指導部の連携による系統的な生徒指導の取組	③ 養護教諭、自立支援担当教員、スクールカウンセラーと生活指導部、学年担任を中心に、人間関係に起因する問題や発達に関する問題に対応してきた。今後も一層連携した指導体制を継続する。
心身の健康づくり 生徒一人一人の健康状態や体力の現状を的確に把握する、個に応じた健康指導の充実 【A】	① 面談週間など学校への帰属感を高める生徒の心身の健康状態に即した教育相談の推進 ② 体力向上に向けた様々な取組の推進	① 教育相談委員会を5回実施し、生徒情報を共有した。様々な特性を持った生徒情報を相談し対応した。スクールカウンセラー2名配置に伴い面談予約数は増加した。情報共有を行った。 ② 体力向上へ向け、体育の授業内で取り組んでいる。データを自ら入力することで、主体的に課題へ取り組む姿勢がみられた。
募集・広報活動 本校の特色ある教育活動への理解を深め入学を希望する中学生の増加 【A】	① ホームページの内容充実、学校案内のレイアウトや内容の刷新 ② 入学者のいない学校や地区の上級学校講話や校外合同説明会等への参加	① ホームページの更新回数を増やし、部活動の写真を充実させた。中学生の7割以上が高校のホームページを見て学校選びをするため、一層内容を充実させる。 ② 外部での説明会に多く参加した。近隣中学校で模擬授業を実施した。本校での学校見学会と個別相談会で8656名と増加した。生徒主体の見学会を行った。
学校経営・組織体制 生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校経営の組織的な展開 【B】	① 企画調整会議を中心とした分掌部会や学年会、教科会の連携の一層強化 ② 会議運営の効率化をはじめとした計画的な業務の進行管理 ③ ライフ・ワーク・バランスの実現を目指す、業務が偏在しない、同僚性の高い職場づくり	① 企画調整会議を中心とし、分掌・学年と連携を図った。探究委員会を実施し、2学年探究担当を決定した。 ② 企画調整会議の円滑な運営を図りながら、主幹会議を必要に応じて開催し学校運営に参加した。 ② 勤務時間外の残業者は減少した。一部多い教員がいる。男性が育児休業を取得しやすい環境が整備された。

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 家庭学習時間を第1学年は1.5時間、第2学年は2時間	○第1学年0.88時間 第2学年1.26時間
○ 英語検定準2級以上取得200名	○英検準2級以上取得 213名
○ 大学入学共通テストにおける教科・科目ごとの平均点が全国平均の95%以上	○達成 13科目 未達成 4科目
○ 国公立大学+難関私立大学+GMARCH合格者延べ人数100名	○ 182名
○ 部活動加入率95%	○92.9%
○ 学校説明会参加者延べ人数5000名	○8656名
○ 推薦入試倍率4倍	○3.7倍
○ 一般入試倍率2倍	○2.07倍

3 次年度に向けた課題と対応策

学習指導では、「課題を見出し、解決策を提示できる思考力・判断力・表現力」を育む授業づくりを引き続き中心に据える。各教員が定期考査後に学力分析を行い、学力向上プランを踏まえた授業改善に取り組んできたことは成果である。一方で、対話的な学びは広がったものの、「主体的に学ぶ」姿勢の定着には課題が残り、家庭学習時間も伸び悩んだ。次年度は、①学力分析→授業改善→課題提示→振り返りの流れを学年・教科で共通化し、学力向上プランを“実行の型”として機能させる。②デジタル機器を活用して学習過程が見える化し、生徒が自ら問いを立て、協働し、解決策をまとめる授業を一層推進する。生徒の「わかった」を「できた」へ、そして「自分でできる」へつなげ、確かな主体性を育む。

進路指導では、探究活動を軸としたキャリア教育の充実により、生徒の進路意識を一段高い水準で維持することを目指してきた。探究の充実は、生徒が主体的に取り組む楽しさを実感し、学びを自分事として捉える上で大きな力となる。第3学年の進路実績からは、3年間を見通した計画的な指導の重要性を改めて確認できた。次年度は、進路部を中心に「最後まで諦めない心」と「向上心」を育てる支援をさらに強化する。その際、合格者数だけに目を向けるのではなく、不合格の要因を丁寧に分析し、学習計画・受験戦略・面談の質の向上へつなげ、指導の精度を高めていく。

生活指導では、校則遵守を基盤とした組織的指導と、生徒の主体性の育成を進めてきた。学校行事を通じて帰属意識を高めることはできた一方、ルールやマナーの徹底が不十分な場面も見られた。次年度は、「守らせる」指導にとどまらず、なぜそのルールがあるのかを言語化し、自ら判断して行動できる“自律”を育てる。日々の声かけと指導の一貫性を確保し、学年・生活指導部が連携して、安心して挑戦できる学校文化をつくる。

保健指導では、生徒一人一人の健康状態・体力の把握に基づき、個に応じた支援の充実を図ってきた。特別な支援を必要とする生徒は増加傾向にあり、早期把握と継続的支援の体制強化が課題である。

次年度は、教育相談委員会等における養護教諭・スクールカウンセラー等との情報共有をより一層密にし、支援の入口を広げる。年5回の情報共有の場を“質”の面でも充実させ、チームで支える体制を確かなものにする。

募集・広報活動では、本校の特色ある教育活動への理解を深め、入学希望者の増加につなげる取組を継続してきた。生徒会や庶務委員会の生徒が、中学生・保護者に本校の魅力を直接語る「生徒主体の広報」は、本校の強みとして定着しつつある。次年度は、学校説明会や学校見学会の質をさらに高めるとともに、ホームページ等の発信力を強化し、本校の日常の教育活動の現場の空気感が伝わる広報へと磨き上げる。